

Tsuda Today

index

- P1 2005年度入学式式辞
- P2 2005年度予算の概要
- P3 新設される「数学科」について
卒業時ご寄付の資金の活用について
卒業時寄付者ご芳名
- P4 研修・活動報告
- P5 2004年度進路状況報告

- P6 BILLBOARD
寮生による中越地震被災者への寄付について
新任専任教員紹介／留学生紹介
2005年度津田梅子記念同窓会賞決定／寄付
個人情報保護に関する本学の方針／新刊紹介
- P8 公開講座

発行日 2005年5月31日
発行 津田塾大学
編集 企画広報課
〒187-8577
東京都小平市津田町2-1-1
Tel.042-342-5113
Fax.042-342-5121
<http://www.tsuda.ac.jp>

2005年度入学式式辞(要旨):津田塾大学学長 飯野 正子

自分を鍛える機会と環境を糧に 自らを高める自己再発見の旅へ

皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日、桜の花が咲き始めたキャンパスに、学部632人、大学院25人の新入生の皆さんをお迎えすることができ、教職員および在学生一同、大変嬉しく思っております。

皆さんにとって本学への入学は大きな目標達成でしょう。けれども、これは新たな夢の追求、そして新たな自分を知る旅の始まりでもあります。ここでは、皆さんがこれから目標達成に向かう旅を、本学の教職員がどのような理念をもって支えてさしあげられるか、お話ししたいと思います。

まず、本学の理念、つまり建学の精神について、少しお話しいたします。本学の前身である「女子英学塾」が津田梅子先生によって1900年に創設されたことは、皆さんすでにご存知だと思います。梅子先生が掲げられた塾の教育の柱は3つあります。柱の1つは、勉学・研究における学生の自主性を重視すること。2つ目は、広い視野を持った人間を育てること。そして3つ目に、その目標を達成する方法としての少人数教育です。

- (1) 自主性の重視、これは受け身的な勉学姿勢ではなく、自分で考える姿勢をさします。「教師や他人に依存する教育は卒業して校門をあとにすると終わってしまうけれども、自主的な思考ができるようになれば、人間は生涯学び続けることができる」のであり、大学はその基盤を作る場だというのが梅子先生のお考えでした。
- (2) 梅子先生は、学生に広い視野を持つことを求めました。専門分野において秀でることに努める一方で、社会の多様性を知ることを通してall-round woman (complete woman)をめざす、ということでした。
- (3) 少人数教育を重視する、この建学の精神は今に引き継がれており、本学では単に知識を与えるだけではない効果的な教育が行われております。少人数教育を通して、さきほど建学の精神として掲げました「自主性を育むこと」「視野を広げること」が可能になると、私どもは信じております。

昨年度、学生の大学に対する満足度を測る外部のある調査で、本学は満足度のもっとも高い大学のひとつという評価を受けました。このような評価を受けることは、私ども教職員にとって大変うれしいことです。教員も職員もよい教育を提供できるよう日々努力しており、その努力が在学生の皆さんに認められているのだと思います。しかし、「満足度」というのは、大学在学中の4年間だけを対象にして測られるべきものではないと、私

は思っております。

大学は、学生の将来にわたって関わり続ける役割を担っているはずで、長い人生のどこかで、本学で勉強したことが、こんな風に自分に影響して

いると、皆さんに満足感をもって思い出していただけるような、そんな教育を教職員はめざしております。

津田塾大学は、誠心誠意、皆さんの成長のために、皆さんのさらなる夢の実現のために、自分で考える材料、そして自分を鍛える機会と環境を提供いたします。皆さんは、在学中にこれらを有効に、積極的に使って、これからの時代を担うための基盤を自分のなかに築いてください。

皆さんの自己発見あるいは自己再発見の旅がどのようなものになるのか、楽しみにしております。本学での生活が、有意義で、実り多いものでありますよう、そして長い人生のなかで自分にとって重要な意味をもつ経験として思い起こされるものとなりますよう、お祈りして、ご挨拶いたします。

【2005年度 入学者数】

学部		1年次	2年次 (編入学)	3年次 (編入学)	大学院		修士課程	後期 博士課程
学部	英文学科	271人	0人	6人	大学院	文学研究科	13人	2人
	国際関係学科	254人	5人	0人		国際関係学研究科	3人	0人
	情報数理科学科	107人	0人	0人		理学研究科	7人	0人

津田スケッチ

先日ある面接で、30人程の在学生に「津田塾大学の魅力」について、短いスピーチをしてもらった。「刺激のある友人たち」「みんなが高めあっていこうという雰囲気」「先生との距離の近さ」そして「豊かな自然」が多くあげられた。学生たちは自信を持って、「授業をきちんと受けていれば英語力はしっかり身につきます」と言う。また、オープンキャンパスに来た高校生からは「本館の建物」とともに「案内してくれた先輩」が素敵、という声をよく耳にする。「津田塾っていい学校だなあ」と思うことが多い仕事に携わっていることを、あらためて感謝したい。(美)

大学の近況

2005年度予算の概要

財務担当学長補佐 情報数理科学科教授 大槻 真

2005年度予算は3月22日に開催の理事会・評議員会で、表Ⅰ・Ⅱのように承認され成立しました。2005年度予算の概要について説明いたします。
(金額はすべて百万円未満四捨五入)

1.2005年度の主な事業計画

2005年度の予算においては、新CALLシステムの導入や英語演習用機器の更新など教育研究設備等整備の推進を計画しています。また、施設の防災・保安体制の強化を進める設備更新を予定しています。施設整備費は前年度より増額したものの、経常的経費を極力抑え収支予算は平年化したものとなっています。

教育・研究面では、2004年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択された「発展し続ける英語教育プログラム」活動を推進していきます。さらに、2005年度から英文学科で「翻訳コース」・「通訳コース」の副専攻がスタートします。また、2学科共通のコースである「多文化・国際協力コース」は2004年度から実質的にスタートし、着実に教育効果をあげています。2006年度からは、現在の情報数理科学科を情報科学科と数学科にリニューアルし、より専門性の高い教育をめざしていきます。

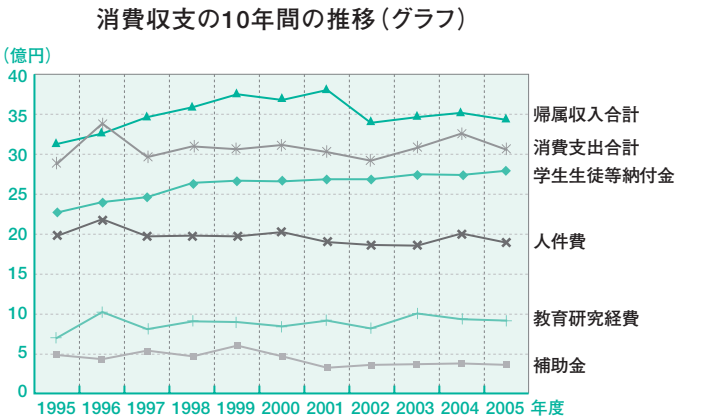
2.消費収支予算の概要

2005年度消費収支予算は、表Ⅱのとおりです。
帰属収入は34億5千4百万円となり、主な収入は、学生生徒等納付金27億8千9百万円(帰属収入の80.7%)、補助金3億4千8百万円(同10.1%)、寄付金は3千万円(同0.9%)を予定しています。

入学時に募集しているご寄付は、本学の少人数教育を支え、きめ細かな教育をさらに充実させることに用いる所存です。

消費収入の部の基本金組入額は、購入した図書や取得した建物・備品などの資産のうち当年度に支払いを済ませた額と将来取得する建物などの引当金繰入額をいいます。2005年度は、教室の空調設備更新などへの支出と南・北校舎、図書館、寮の建築のための引当を予定し、4億5千1百万円(帰属収入の13.1%)となります。

その結果、消費収入は30億3百万円となりました。消費支出は経常経費の削減に努力しましたが、30億7千3百万円となり、結果として消費収支差額は6千9百万円の支出超過となる予定です。



※1995年度～2003年度は決算、2004年度は補正予算、2005年度は予算案。
人件費は、教員人件費＋職員人件費＋退職給与引当金繰入額。

【表Ⅰ：資金収支予算書】

収入の部 (単位:百万円)			
科目	2005年度	2004年度	増減
学生生徒等納付金収入	2,789	2,739	50
手数料収入	148	143	6
寄付金収入	26	18	8
補助金収入	348	377	△ 29
資産運用収入	14	16	△ 2
資産売却収入	300	300	0
事業収入	67	67	0
雑収入	58	156	△ 97
借入金等収入	1	0	1
前受金収入	632	630	2
その他の収入	375	489	△ 114
資金収入調整勘定	△ 674	△ 796	121
前年度繰越支払資金	1,156	1,305	△ 149
収入の部合計	5,238	5,443	△ 205

支出の部 (単位:百万円)			
科目	2005年度	2004年度	増減
人件費支出	1,937	2,076	△ 139
教育研究経費支出	668	639	29
管理経費支出	178	152	26
借入金等利息支出	6	7	△ 1
借入金等返済支出	93	99	△ 6
施設関係支出	160	19	141
設備関係支出	143	135	8
資産運用支出	1,036	1,198	△ 161
その他の支出	196	199	△ 3
[予備費]	30	30	0
資金支出調整勘定	△ 216	△ 267	52
次年繰越支払資金	1,006	1,156	△ 149
支出の部合計	5,238	5,443	△ 205

【表Ⅱ：消費収支予算書】

消費収入の部 (単位:百万円)			
科目	2005年度	2004年度	増減
学生生徒等納付金	2,789	2,739	50
手数料	148	143	6
寄付金	30	22	8
補助金	348	377	△ 29
資産運用収入	14	16	△ 2
事業収入	67	67	0
雑収入	58	156	△ 97
帰属収入合計	3,454	3,519	△ 65
基本金組入額合計	△ 451	△ 319	△ 132
消費収入の部合計	3,003	3,201	△ 197

消費支出の部 (単位:百万円)			
科目	2005年度	2004年度	増減
人件費	1,899	2,019	△ 121
教育研究経費	922	933	△ 11
管理経費	215	190	26
借入金等利息	6	7	△ 1
資産処分差額	1	0	0
[予備費]	30	30	0
消費支出の部合計	3,073	3,180	△ 107
当年度消費支出超過額	△ 69	21	/
前年度繰越消費収入超過額	414	393	/
翌年度繰越消費収入超過額	344	414	/

大学改革

新設される「数学科」について

2006年4月、現在ある情報数理科学科が生まれ変わり、新たに「数学科」と「情報科学科」が設置されます。今号では前号の情報科学科に引き続き、数学科の教育目標をご紹介します。

数学科の教育目標

情報数理科学科教授 太田 香

数学は非常に美しい理論体系を持った学問であると同時に、さまざまな自然現象や社会現象を分析したり、それらの問題を解き明かすための強力な道具でもあります。また、より身近な視点でみますと、数学を勉強することにより科学的な考え方に慣れ親しみ、卒業後いろいろな企業や大学などの研究機関で応用することができて活躍の場が広がります。特に、科学的分野において女性の視点が強く求められている昨今、津田塾大学数学科の存在意義は大きいと思われます。

これらを踏まえて、数学科では次のような教育をめざします。第一に、数学を体系的に理解し、数学的思考(法)が身につくように教育します。ここでいう「数学的思考が身につく」とは、

1. 形状の異なる多くの対象に共通している構造・概念を抽出する力、ものごとを抽象化する力
2. ある状態を仮定して、それから引き起こされる結果を予想する力
3. 手近なところで起きている事柄(事実、事件)の中にひそむ普遍性を見出す力
4. ものごとの道筋で、うまいショートカットを見つけられる力、単純化する力

ご支援・ご協力に感謝申し上げます

＜卒業時ご寄付の資金の活用について＞

2004年度卒業時に、509万円(4月30日受付現在)のご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

このご寄付は、生涯学習資金(TOEIC対策講座等開催)、ボランティア活動等資金、花と緑資金(グラウンド周囲桜の回復治療)、図書充実(「女性関連学位論文コレクション」購入)、外国人留学生等支援資金、卒業時寄付講座(「初等英語教育法」)に配分して使わせていただいております。貴重なご寄付で行った特定事業として、在学生や将来の津田塾生に明確に伝えられるように、書籍にはご寄付と記し、講座には冠を、それぞれの事業では、プレートなどを付し、明記させていただいております。

＜ご寄付者のご芳名掲載について＞

本学の教育・研究環境の整備・充実、学生生活の支援のため、4月に新入生のご父母の皆様にご寄付をお願いしております。ご支援いただきました皆様には深く感謝いたすとともに、厚くお礼申し上げます。ご寄付いただいた方々のご芳名は、今後発行する本誌に掲載してまいります。掲載を希望されない方は、下記までご連絡ください。

なお、ご寄付に関してのご相談・お問い合わせは、経理課でお受けしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

津田塾大学 経理課

〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1
TEL 042-342-5125 FAX 042-341-2444
E-mail:keirika@tsuda.ac.jp

●卒業時寄付者ご芳名

浅野 敏重、早川 功、平山 まゆ、伊藤 信男、金子 秀喜、木ノ内 稔、北村 康雅、萬代 敏子、水沼 美代、新岡 智、奥谷 茂則、島野彦一郎、菅原 元幸、高橋 悟美、高村 幸治、若菜 良友、後藤 利博、中岡 章、野村今日子、佐藤 寛子、高橋 康人、高久 昌一、青野 優、岩井 廣右、江田喜代人、牧野 勇次、奥田 明美、滝本 長雄、上杉 洋、米津喜八郎、藤林 功、廣田 久佳、近藤 徹勇、前田 あや、三浦 若菜、竝川 寛、西川 元治、大場 正昭、大橋 晴吉、関口 剛、嶋村 和男、須藤由利子、高橋 由和、坪香 伸、山本真知子、長橋 俊正、水藤 創、濱田 武夫、井尻 学、石原 多記、神谷 英世、野田 賢治、大場善次郎、山崎 善一、篠原 宣行、末木 崇、菅原市太郎、鈴木 良昌、杉山 茂久、桂巻 将人、城内 謙三、長町 昭二、織田 千秋、奥 飛鳥、与那原永嘉、福島 健一、丸山 晴雄、元村 幸代、永田 章、佐藤 政興、品川 正典、眞貝 助子、高橋 瑞龍、佐藤 正仁、堀内 俊幸、経澤 祐子、前野 泰博、長宗健一郎、榊原 久之、椎貝 省市、谷口 林二、山本 和好、吉本 茂、蓮見 豊、石原 俊幸、加賀美久弥、森川保次郎、尾花 英明、渡辺 舞、山岡 隆子 (順不同敬称略)

研修・活動報告

～YOSAKOI～スクールダンス フェスティバル IN小平 2005



木下 千歩

ダンスナッツ代表
英文学科3年

小平市教育委員会主催の「～YOSAKOI～スクールダンスフェスティバル IN小平 2005」が、3月12日土曜日、小平市総合体育館で開催されました。このイベントは、小平市教育委員会が実施した「子ども放課後・週末活動支援事業」を受けて広まっている「小平よさこい」を披露しあい、学校を核とし、小さい子からお年寄りまで、よさこいに限らずいろいろなダンスを通して交流することで、地域を活性化させようというねらいのもとに企画されたものです。

小平市の小学校10校、創価高校、学芸大、白梅短大、主催本部と、多くの参加者が集まりました。津田塾大学ダンスナッツも、地域の大学として、このスクールダンスフェスティバルに参加しました。全ての参加者に共通していることは、ダンスのどこかで「鳴子を持つ」ということです。発表するものは各学校で取り組んでいるダンスでよい、ということだったので、ダンスナッツらしい明るい“和”のイメージでダンスを作ることになりました。初めて持つ鳴子に初めは戸惑いもありましたが、持ち方しだいで音の鳴り方が変わるということも練習していくうちにわかってきました。津軽三味線で有名な吉田兄弟の「疾風」という曲にのせて、大空のもと元気に駆けまわりたい、楽しくお祭り気分です踊りたい、そんなメッセージをこめて、1回踊れば息もきれぎれになるくらいハードに、そして楽しく練習しました。2月の上旬から振りを皆で覚え、3月末に控えている公演に向けての練習と同時進行で取り組みました。練習で無理をして足を痛めたり、体調を悪くしたりするメンバーがでてきて、なんとなく全体の雰囲気が悪くなる時期もありましたが、迎えた当日には全員が参加し、会場の明るい雰囲気に私たちのテンションも一気に上がり、体育館の広い空間でのびのびと思い切り踊ることができました。この作品に合わせて、心の燃えるような真っ赤なおそろいのハッピーを用意し、思い思いに着ました。服装には個性が出て、気持ちは一つ。本当に楽しかったです。たくさんの小学生が一生懸命踊っている姿や、学芸大学のチームが見せてくれたヒップホップなどカッコいいダンスにも刺激をうけました。参加者みんなで盛り上げて、とてもよいイベントになりました。踊るだけでなく、皆で会場の準備やグッズ販売などスタッフとしても働き、イベント開催に貢献できたと思います。約1ヶ月間、それぞれ時間をやりくりしながら練習してきました。新しく取り組んだよさこいはまた一つ皆の成長の糧になったと信じています。

また、踊ること自体ではなく、皆で一つのものを作り上げるときの自己管理の大切さや、仲間同士お互いに目を配ることが全体をよくするために必要だということなど、練習を通して学んだことがたくさんあります。この経験を次へのやる気に繋げて、これから頑張っていきます！



小平よさこいの会

小平よさこいの会とは、小平市の小学校、中学校、高校・大学のダンスチームなどで構成され、小平よさこい等の踊りの普及活動を通して、青少年の育成、活気ある地域文化の創造に寄与することを目的とした会です。スクールダンスフェスティバルだけでなく、1年を通して、小平市で開催されるさまざまな祭りに参加する活動をしています。

研修・活動報告

日本語教員養成課程を修了して



谷川 博美

2005年3月本学
英文学科卒業
姫路市立網干中学校
教員

本学には、日本語を母語としない人々に日本語を教える教員を育成する、日本語教員養成課程があります。その最終段階で、「日本語教授法演習」という授業を履修します。この授業では、日本語学習者に対して、課程履修者がグループになって、日本語学習の場を企画・提供します。企画の中には、学習支援をはじめ料理作りや、交流パーティーなどがあります。私のグループは、留学生の方々が日本の小学校の様子を知り、小学生と交流する会を企画しました。

まず、小学校への打診です。日頃から小学校と関わりのあるメンバーが、小学校へ依頼書を提出しました。小学校で実施が決定されると、次に留学生集めです。小学校があいているのは平日で、留学生は平日には授業があるなど、日程を調節するのに四苦八苦しました。また、留学生の出身国に偏りがないように、さまざまな留学生に話を持ちかけました。

小学校訪問は、3・4校時に国立第四小学校の体育館で交流会を、その後、交流給食という流れです。交流会は、前半、小学生がグループに分かれて、ブースのような形で、日本のことを紹介しました。留学生は時間内にできるだけ多くのブースを回ります。小学生は、日本の遊び、盆踊り、歴史など、自分たちで考えたものを一生懸命紹介しました。中には、怖い話や現代の遊びなどユニークなものもあり、留学生も楽しめたように思います。後半は、前半と正反対で、留学生が、それぞれの国の文化を紹介しました。そして小学生はブースを回っていきます。母国の子供たちの間で人気の踊りや人形劇、民族衣装の試着、写真や本などで国の様子を紹介する



など、さまざまなものを紹介していただきました。そして、交流給食です。留学生にとっては日本の給食が初めてだった方も多く、また、子供たちと気兼ねなく語り合えるということで、交流給食もとてもよいものになったと思います。

留学生も小学生も、この交流会をととても楽しんでいました。会の終わりが先生から告げられると、「え～！もう終わり～!?」と言う小学生の声は、私たちにとってとても嬉しいものでした。留学生も楽しかったという感想を残していました。この会を成功させるために、メンバーが一丸となって努力したことなど、この会からたくさんのことを学ぶことができました。

日本語教員養成課程とは

現在、国内の日本語学習者は、およそ13万5千人。海外では、235万人を超える人がさまざまな教育機関で学んでいます。本学の日本語教員養成課程では、多様な社会文化的背景を持つ学習者の必要性に応じた日本語学習の支援を目的としています。最終段階の日本語教授法演習のクラスで、多様な実践の場に触れ、学習者と直接接する体験を通して、日本語学習支援のあり方を探っています。

進路状況

2004年度進路状況報告

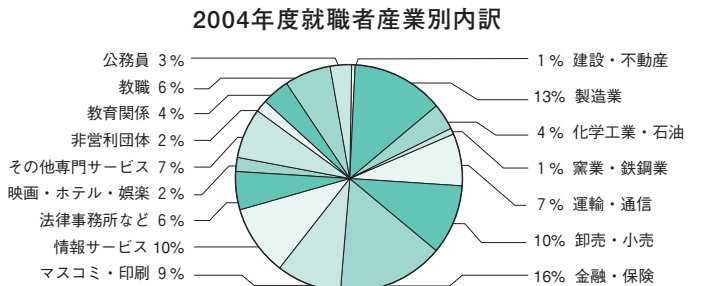
2004年度卒業生の進路状況

■概況

2005年3月卒業生676人の進路の概要は、就職496人（全体の73％）、進学（国内大学院・大学進学者および進学希望者、留学希望者を含む）82人（同12％）、その他（司法試験等受験準備、専門学校進学など）98人（同14％）となっています。

■就職

就職者のうち教員は30人、公務員は14人です。求職者に対する就職決定率は約96％（前年比±0％）となりました。就職者の産業業種別内訳は次の円グラフの通りです。積極的な企業の採用活動により、本学への求人申込み数は昨年より約100件多い1317件にのぼりました。就職者数の多い企業は東京三菱銀行（14人、英4・国6・数4）、三井住友銀行（8人、英3・国4・数1）、長島・大野・常松法律事務所（6人、英4・国2）、みずほフィナンシャルグループ（5人、国1・数4）、日立製作所（4人、英1・数3）、資生堂（4人、英1・国3）、日本銀行（4人、数4）、NEC（4人、数4）です。業績が回復した電機メーカー、不良債権処理が一段落つき金融自由化をにらみテール部門の強化を図った都市銀行、合併による大手の再編が行われた大手法律事務所が上位となりました。



■教員

教員では、公立教員採用試験11都県で延べ20人合格という大健闘でした。公立教員採用は団塊の世代の大量退職時代を迎え、特に大都市圏での採用増に動いています。また、選考の際に模擬授業を課すほか、教授経験や語学運用力などの実践力を重視するようになってきました。私立教員も同様に経験重視・模擬授業必須の傾向にあります。このような傾向は実践的な教育を受けている本学の教員志望者にとっては好機であると思われます。

2004年度学科別主な就職先

（）は人数、社名は内定時のもの

【英文学科】 サントリー モロゾフ 日本コムシス 信濃毎日新聞 愛媛新聞 新潟日報社 ベネッセコーポレーション 光村図書出版 ぴあ 大日本印刷 資生堂 ノエビア 日亜化学工業 昭栄化学工業 ダイキン工業 石福金属興業 日立製作所 シャープ 富士通 富士ゼロックス 沖電気工業 半導体エネルギー研究所 日産自動車 エポック社 ビジョン コナミ 北海道電力 四国電力 全日本空輸 ジャルスカイサービス 日本通運 西濃運輸 佐川急便 三井倉庫 ANAロジスティクス ANAセールス&ツアーズ 西鉄旅行 三井物産 オービック(2) 住商機電貿易 エトワール海産(2) チェックポイントシステムジャパン(2) 双日エアロスペース 西武百貨店 イオン 全日本食品 コーンズドットウェル アイリスオーヤマ 日本政策投資銀行 東京三菱銀行(4) 三井住友銀行(3) 新生銀行 常陽銀行 スルガ銀行 中央労働金庫 ディーシーカード クレディセゾン 浜松信用金庫 だいこう証券ビジネス 日本生命保険 住友生命保険 クレディ・スイス生命保険 東京海上日動火災保険 栗本学園 五島育英会 公文教育研究会(2) イーオン(2) 栄光 青森放送 電通テック 電通東日本 日本情報産業 フィナンシャルプレインシステムズ 損保ジャパンシステムソリューションズ アンダーソン・毛利・友常法律事務所(2) 長島・大野・常松法律事務所(4) さくら共同法律事務所 西村とさわ法律事務所 テイクアンドギフ・ニーズ 日本マニユアルセンター ギャガ・コミュニケーションズ ハウステンボス パンパシフィックホテル横浜 小田急ホテルズアンドリゾーツ

【国際関係学科】 ヤクルト 朝日新聞社 岐阜新聞社 時事通信社 小学館 資生堂(3) ノエビア ファイザー 大塚製薬 帝人ファーマ(2) ノリタケカンパニーリミテド 東陶機器 新日本製鐵 石福金属興業 東芝 日本IBM アイ・オー・データ機器 明電舎 半導体エネルギー研究所 いすゞ自動車 アシシン精機 ケービン YKK 三協精機製作所 任天堂 全日本空輸 日本航空インターナショナル ジャルスカイサービス JR東日本 JR東海 近鉄エクスプレス JTBカーゴ 住商ロジスティクス 東武トラベル 住友商事 阪和興業 アップルコンピュータ 住商機電貿易 内田洋行 エム・シー・マシナリー(2) ベルーナ 東京ソワール しむむら アイドル 東京三菱銀行(6) 三井住友銀行(4) みずほフィナンシャルグループ UFJ銀行 新生銀行(2) 三菱信託銀行 農林中央金庫 パキスタンナショナル銀行 福岡銀行 群馬銀行 長野銀行 静岡銀行 八十二銀行 ディーシーカード JALカード 新光証券 みずほインベスター証券 アリコジャパン アイエヌジ生命保険 オリックス生命保険 東京海上日動火災保険 損保ジャパン 日本保険損害査定 NOVA ジオス 逸山真学塾 サントリーパブリシティサービス 共同一アール NEC ソフト NTTデータ インフォテック/朝日 ソフトバンクBB(2) 日本情報産業 ワンビシアーカイブズ アンダーソン・毛利・友常法律事務所 長島・大野・常松法律事務所(2) さくら共同法律事務所 西村とさわ法律事務所 NHK文化センター 総合証券事務サービス(2) パナソニック(2) 日本規格協会 日本経済研究センター 日本品質保証機構 日本原子力研究所

【情報数理科学科】 大日本印刷 東京書籍 大日精工工業 日立製作所(3) NEC(4) 東芝 シャープ 富士通(2) 富士ゼロックス 日本IBM(2) 日置電機 マツダ シーメンス旭メディック NTT東日本 NTTドコモ(2) NTTコミュニケーションズ オービック ダイワボウ情報システム 三菱商事プラスチック リフロ 日本銀行(4) 日本政策投資銀行 東京三菱銀行(4) 三井住友銀行 みずほフィナンシャルグループ(4) 山梨中央銀行 日本興亜損害保険 土佐塾 東京サウンドプロダクション ジュピターテレコム 楽天 日立システムアンドサービス 日本NCRビジネスソリューション デンソーアイテック 鉄道情報システム NTTドコモテクノロジ 第一生命情報システム 野村総合研究所 日本総合研究所 みずほ情報総研 NTTデータクリエーション インテリジェンス 第一興商 JA共済

【教員】 ●英語:公立高等学校(英文2 岩手県 山形県)、公立中学(英文8 青森県 福島県 埼玉県 神奈川県 山梨県 栃木県 滋賀県 兵庫県)、公立中学・高等学校(英文3 東京都2 神奈川県、国際1 東京都)、私立中学・高等学校(英文8 自由学園 共立女子2 大妻2 十文字学園 清泉女学院 秀明英光、国際2 東京家政学院 西武台千葉) ●数学:公立高等学校(情数1 埼玉県)、公立中学・高等学校(情数1 神奈川県)、私立中学・高等学校(情数3 橘学院 山梨学院 栗本学園) 【公務員】 ●国家公務員(英文2 経済産業省 厚生労働省、国際2 総務省 厚生労働省) ●地方公務員(英文4 神奈川県警察事務 長井市 戸田市 高萩市、国際6 東京・特別区 所沢市 市原市 つくば市 小平市2)

活 動 報 告

寮生による中越地震被災者への寄付について

昨年10月新潟県中越地方を襲った大地震、毎日報道される未曾有の大災害に何かお手伝いできることはないかと思った方も多かったはずです。

私たち寮生はちょうどその頃、2003年度の光熱水雑費の残金の使途について模索していました。いつも残金があったときは、電子レンジの買い換えなど備品購入に充当していましたが、一部の寮生から義援金にできないだろうかという提案があり、急遽すべての寮で検討した結果、同じ教育を受ける立場の子どもたちに役立ててもらえるように贈ることを決めました。有効に贈るにはどうしたら良いか各寮の代表者が何度も集まって、地元出身者の学生から状況を聞いたり、ボランティアに参加した学生からアドバイスを受たりして話し合いを重ねてきました。

その折、偶然にも卒業生でしかも元白梅寮生で現在小千谷市職員の田村しのぶさんとお話する機会を得て、小千谷市が総合的学



習として取り組んでいる「ふれあいアクティブプラン」を知りました。子どもたちが田植えをして収穫したお米でもちつきをしている姿は心温まる光景でしたが、地震対応により来年は実現できないかもしれないと伺い、寮生の義援金がこれに活用されるならこれほど有意義なことはないということになりました。そして、この義援金を直接お

渡しすることになり、多くの寮生の協力によって目録や寄せ書きなどを作成しました。

地震が起きて半年、まだ地震の傷跡が残る3月23日(水)、寮生を代表して新潟県出身の東寮4年生昆妙子さんと3年生茂木実奈さんが小千谷市役所を訪ねて渡部教育長に義援金60万円と寮生からのメッセージ「がんばれ! 小千谷っ子」の寄せ書きを手渡しました。この寄せ書きは、現在小千谷市教育委員会の事務室に飾られてみなさんの励みになっていると聞いています。小千谷市教育委員会では、教育にと寄せられた義援金1,000万円で「小千谷市教育支援基金」を設立しており、寮生からの60万円もこの基金に繰り入れられるそうです。

今回の義援金では十分に足りるものではありませんが、寮生の意思にご理解いただきご協力くださった、田村さんをはじめとする小千谷市教育委員会の皆様に心から感謝いたします。ようやく春を迎えた小千谷市、一日も早い復興を願っております。

留 学 生
紹 介ようこそ津田塾大学へ
協定大学からの
交換受入れ学生紹介

金 智英
梨花女子大学(韓国)
在籍学科:国際関係学科
留学期間:2005年4月～2006年3月

鄭 珍伊
梨花女子大学(韓国)
在籍学科:国際関係学科
留学期間:2005年4月～2006年3月

劉 貞誼
淡江大学(台湾)
在籍学科:英文学科
留学期間:2005年4月～2006年3月

Bonnie Gudmunson
ウエスタン・ワシントン大学(アメリカ)
在籍学科:国際関係学科
留学期間:2005年4月～2006年3月

Alaine Douglas
オーストラリア国立大学(オーストラリア)
在籍学科:国際関係学科
留学期間:2005年4月～2006年3月

Meridel Newton
プリンマー大学(アメリカ)
在籍学科:国際関係学科
留学期間:2005年4月～2005年8月

Phoebe Seiders
プリンマー大学(アメリカ)
在籍学科:英文学科
留学期間:2005年4月～2005年8月

劉 艶
沖縄大学(中国からの留学生)
在籍学科:国際関係学科
留学期間:2005年4月～2006年3月

受 賞

2005年度
津田梅子記念同窓会賞
決定!

「津田梅子記念同窓会賞」は、成績・人物とも優秀で、奉仕の精神に富む学部4年生を対象に授与されるものです。今年度の受賞者は下記の通りです。

2005年度 津田梅子記念同窓会賞贈呈該当者

英 文 学 科 梅 田 慈 子

英 文 学 科 廣 野 澄

国際関係学科 藤 丸 真 美

国際関係学科 佐藤万里子

情報数理科学科 福 本 紗 千



贈呈式:2005年5月22日(日)
於:津田塾大学同窓会総会

新任専任教員紹介



大泉 敬子
国際関係学科 教授

主な担当科目:国際機構論、国際機構特論、2年・3年・4年セミナー



小舘 亮之
情報数理科学科 助教授

主な担当科目:アルゴリズム入門、コンピュータグラフィックス、情報表現、1年・3年・4年セミナー



Tony Mullen
情報数理科学科 専任講師

主な担当科目:特別講義A・B、3年セミナー、4年セミナー、英語会話II

■入学式の日、何十年かぶりで見事な津田の桜に再会しました。院生寮を抜け出して闇夜にリンと咲く桜の下をもの想いながら歩いた遠い昔の日々を思い出しました。津田の学部と大学院での長い学生生活の後、2つの大学での教職を経て、この4月から母塾に恩返しをする機会を与えていただきました。

国や社会や人間が国際的にあるいはグローバルに結び合い繋がりがあって国連のような国際機構や国境なき医師団のようなNGOを組織することは、国際関係をどのように変容させ国際社会の秩序形成にいかなる影響を与えてきたのだろうか、といった問題関心をもって国際機構論を講じます。今も昔も変わらぬ梅子のメッセージに耳傾けながら、若き学生の皆さんや教職員の方々と共に「学びあう楽しみ」をたーくさん味わおうと思っています。

■DVDや、最近急速に普及しつつある携帯型音楽プレーヤーの中核的な技術であるマルチメディア情報処理が専門です。ここ数年は、情報通信技術と社会の関心に興味をもち、特に少子高齢社会における医療、介護、育児といった健康福祉関連サービスへの情報通信システムの適用について国際・学際的な視点から研究を行っています。

携帯電話の高い普及率と手厚い福祉で名高いフィンランドに代表される北欧型社会モデルにも関心をもっていますが、より良い福祉の実現のためには女性の情報科学者の視点が必要不可欠であると感じています。将来を担う学生達と共に、情報社会のあるべき姿について考えていきたいと思っています。

通勤時間は片道20分。帰宅後、昨年授かった長男と遊ぶのを毎日楽しみにしています。

■アメリカで生まれ、ワシントン州ワシントン大学を卒業(英文学学士)しました。アイルランドのダブリン大学トリニティカレッジで言語学修士号を取得した後、オランダのグローニンゲン大学で、計量言語学分野の研究で博士号を取得しました。アメリカの企業でソフトウェア開発に携わった後、2003年3月に来日し、国立情報学研究所で自然言語処理と機械学習の研究に従事しました。

主な研究分野は、統計的手法を利用した自然言語処理です。実際に人間が使っている言語を、コンピュータを駆使して処理することに興味を持っています。教育面では、どのようにコンピュータは効果的に活用できるのか、そのためには、どのような計算モデルが必要かなどについて教えたいと考えています。

寄 付

寄付者ご芳名
ご協力に感謝いたします

寄付金

以下のとおりご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。(5月1日現在)

○教育研究施設設備充実のため(生涯学習資金)
斎藤 値恵子 殿 164,900円

○教育研究施設設備充実のため(グラウンド桜保全)
村上 澁子 殿(英 1959年卒) 3,000円

○教育研究施設設備充実のため(グラウンド桜保全)
清水 幸子 殿(数 1955年卒) 10,000円

お知らせ

個人情報保護に関する本学の方針

津田塾大学は、学生、教職員、卒業生、受験生等本学に関係する方々の個人情報については、十分な配慮のもとに取り扱ってきました。この方針を今後も堅持するとともに、個人情報保護に関する法律の完全施行を機に、さらに個人情報の保護に取り組んでいきます。

●個人情報の取扱いに関するお問い合わせ先
津田塾大学総務課 E-mail: soumuka@tsuda.ac.jp

●この記事の詳細は
http://www.tsuda.ac.jp/ja/privacy_policy.html
に掲載しています。

新刊の
ご紹介Tsuda
Today

▶津田梅子 ひとりの名教師の軌跡



(双文社出版 3,780円税込み)

著者:亀田 帛子(本学国際関係学科教授)

津田梅子は六歳にして岩倉使節団に加わりアメリカへ留学した。これは小学生でも知っている歴史的事実である。この留学は、父・津田仙の意向に添ったものであった。1889年の梅子のプリンマー大学留学は、教育者梅子を飛躍的に発展させた、梅子にとっては大きな出来事である。このプリンマー大学留学は、どの伝記にも、フィラデルフィアの大富豪ウイスター・モリス夫人が梅子を招いてくれたことによるとある。それは間違いなく正しい事実なのだが、私には、なぜモリス夫人がそれほどまでに梅子に

好意的であるのが今ひとつはっきりせず、それは「謎」として、いつも私のなかに沈んでいた。

この書は、いうならば、その「謎」を解くことが一つのテーマとなっている。梅子自身の書簡や日記、梅子の友人クララ・ホイットニーの日記、梅子の公式記録、残されているクエーカーの記録類、当時の新聞等、を読み解くことは、私にとってはなかなか楽しい作業であった。謎解きの過程で浮かび上がる梅子と梅子の時代を感じとっていたければ幸いである。

▶明日に架ける生成文法



(開拓社 3,150円税込み)

池内 正幸(本学英文学教授)・中島 平三(学習院大学文学部教授)共著

言語学に「革命」をもたらしたとされる Noam Chomsky による生成文法理論が台頭して約半世紀となる。その革命性は今世紀に入って一層勢いを増している。本書は、生成文法理論の本質的な諸特徴を「抽象性の重視」と「最適性の追求」に分類し、それぞれの特徴について言語分析上の意義、利点、成果などを具体的に例証・解説するこれまでにない新たな試みである。学派を越えて今後の言語研究へ受け継がれるべき生成文法革命の功効を解き明かす。

▶旅する人の地域研究 ―ビーズ・織物・影絵の語る現代世界―



(文化書房博文社 2,100円税込み)

著者:加納 弘勝(本学国際関係学科教授)

5年間ほど担当してきた講義、「地域研究序説」をもとに、カラーページ付きの書をまとめた。世界諸地域を旅すれば出会う「文化的なモノ」(ビーズ、織物、影絵人形劇)も、「方法としての地域研究」を意識すれば、「人々の願い」に共感しつつ、「地域を立体的、総合的」に考える「地域研究」を可能してくれる。「文化的なモノ」は、グローバルゼーションと「地域、とくに地域文化の対処」という、「(国際関係)を豊かに具体的に語ってくれ、旅する人に「二つの文化の出会い」を体験させてくれる。

IF YOU'RE INTERESTED...

公開講座

津田梅子記念交流館プログラム

※お申込みは、津田梅子記念交流館事務局
(☎042-342-5146)まで

「自分も相手も大切にするコミュニケーション」

講 師：岩井美代子氏(三鷹市社会福祉協議会精神保健相談員)
日 時：2005年6月8日、15日、22日、29日、7月6日(水) 10:00~12:00
参 加 費：10,000円

「英語教員のためのワークショップ」

講 師：渡辺教子氏(ベネトンジャパン株式会社取締役広報宣伝部長・1982年本学国際関係学科卒) 他
日 程：2005年8月4日(木)~6日(土) 10:00~16:30
参 加 費：18,000円

「TOEFL® 講座Ⅱ」

【津田塾生優先】

日 程：2005年8月25日(木)~31日(水)
土・日を除く5日間 9:00~16:10
参加費：津田塾生24,000円

「数学教員のためのワークショップ」

講 師：何森 仁氏(津田塾大学非常勤講師) 他
日 程：2005年8月10日(水)~12日(金)
10:00~16:30
参加費：18,000円

「思春期のこどもたち(仮)」

講 師：John Wulsin氏、Jane Wulsin氏
日 程：2005年8月7日(日)~9日(火)
9:00~18:00
参加費：20,000円

「講座 音楽療法」

講 師：濱谷紀子氏(同志社女子大学教授)
日 程：8月5日、12日、26日、9月2日(金)
9:00~12:00 全4回
参加費：12,000円

「Storytelling-The Craft of the storyteller」

講 師：Duncan Mackintosh氏(英国Emerson College教授)
日 程：2005年8月17日(水)~19日(金) 9:00~18:00
参加費：20,000円

「総合2005」 動き 「総合2005」を一般市民の方に公開いたします。

この講座は本学学生のための正規授業ですが、市民の方々との交流を願って一般に公開しているものです。
年度ごとに現代の切実な問題を取り上げて、学生と教員が協力して運営にあたります。

【前期講演予定者】

6月 2日(木) みはしまり氏(浮世絵師)
9日(木) 櫻井 周氏(国際協力銀行)
16日(木) 佐倉智美氏(佐倉ジェンダー研究所長)

6月23日(木) 鳥巢知得氏(オルタナティブ・リサーチ マネージャー)
30日(木) 石川文洋氏(カメラマン)
7月 7日(木) 伊藤直子氏(振付家)

期 間：2005年4月14日(木)~2005年7月 7日(木)〔前期 全12回〕
2005年9月15日(木)~2006年1月12日(木)〔後期 全13回〕
日 時：毎週木曜日 13:00~14:30
場 所：津田塾大学 新館特別教室
聴講料：無料(事前申込不要)

※講師の都合などにより、講演予定者に変更になることがあります。
※キャンパス内に保育所があり、聴講の方も有料で一時的に利用することができます。

詳細は本学HPを参照されるか、本学教務課
(TEL:042-342-5130)までお問い合わせください。